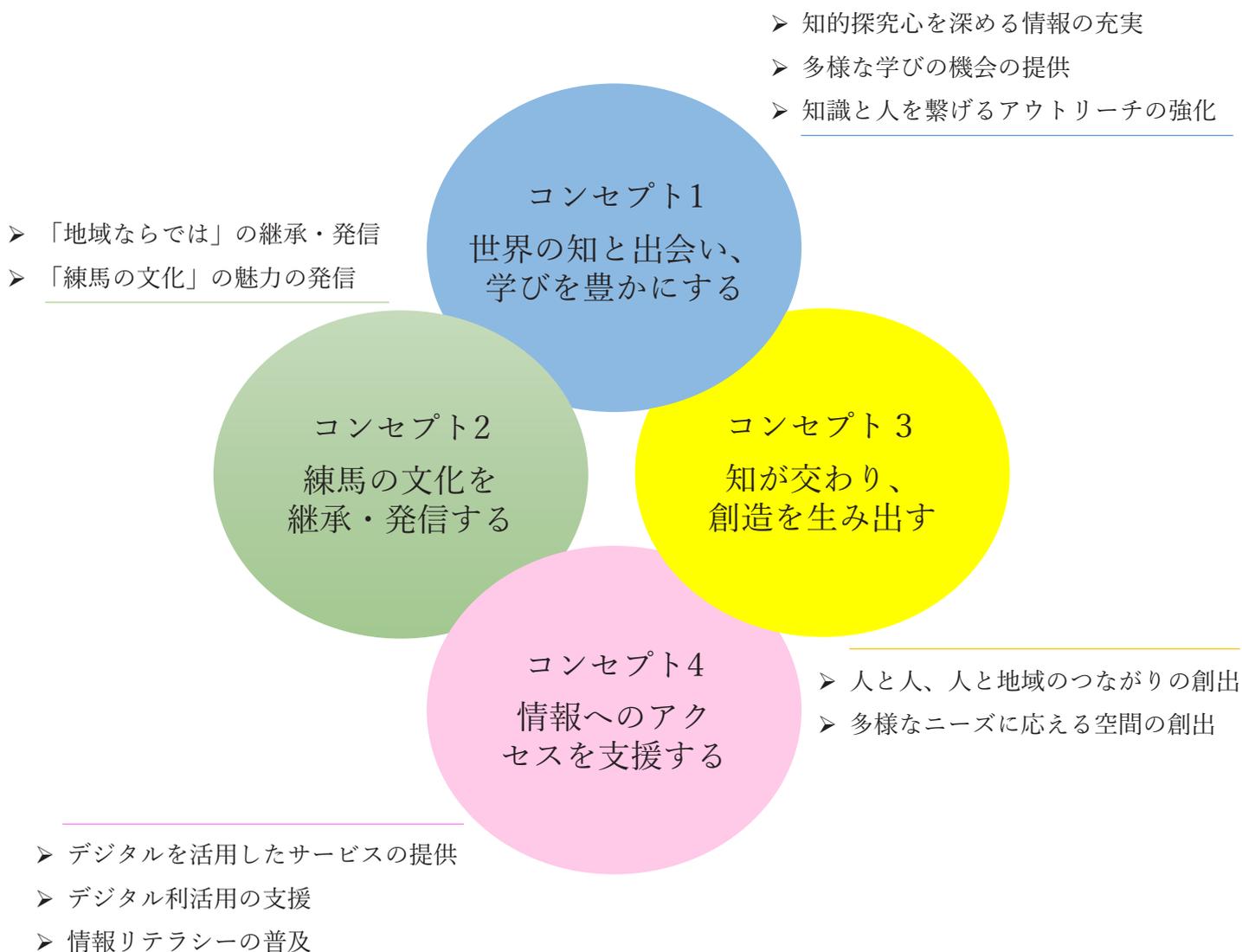

第3章 新たな図書館づくりに向けたコンセプト

構想の4つのコンセプト

将来像の実現に向け、以下の4つのコンセプトを掲げます。

練馬区立図書館ビジョンに基づく取組を充実させながら、これらのコンセプトに基づく取組を進めることで、「世界につながる 彩り豊かな 知の情報拠点」として、新たな図書館の将来像の実現を目指します。



4つのコンセプトを踏まえ、将来像を実現

コンセプト 1

世界の知と出会い、学びを豊かにする

生涯を通じ区民の誰もが主体的に学びを継続し、暮らしの中で直面する課題の解決の糸口を見つけられる環境が必要です。

身近にある各図書館が、地域特性を生かし、各館の魅力を磨くことにより、多様な情報を区民に届け、生涯を通じた学びの機会を提供します。

知的探究心を深める情報の充実

区民が知的探究心を深め、新たな発見が得られるよう、各館が特色を強化し、魅力ある情報を発信していきます。また、世界の情報にアクセスできる環境の整備や専門的な情報を有する機関とのネットワークを構築することにより、多様な情報を集積し、提供します。

取組例

- ・地域特性を生かした各館の魅力あるコレクションの充実
- ・オンラインデータベースやデジタルアーカイブ(※)の利用環境の整備
- ・男女共同参画センターや石神井公園ふるさと文化館、美術館など
区立施設の所有する図書等の情報共有

※デジタルアーカイブ

有形無形の文化資源などをデジタル情報として保存し、データを公開することで、多くの人がインターネット上で共有・利用できる仕組みのこと



昆虫関連資料の収集に加え、
飼育や標本展示も行う
(稲荷山図書館)

多様な学びの機会の提供

国内の専門施設や大学等と連携して学術分野に関する最新の研究等に触れられる機会を創出し、新たな視点、考え方との出会いを提供します。また、関係部署や地域団体等と連携して多様な講座やイベントを実施し、区民の学びや暮らしの中で直面する課題の解決を支援します。

取組例

- ・専門家を招へいた講演会やワークショップの実施
- ・芸術などの教養に関する講座や、子育てなどの生活上の課題に関するイベントの実施

※江古田ミツバチ・プロジェクト

武蔵大学の学生と地域住民が協力して武蔵大学の屋上でミツバチを飼育し、採れたハチミツを商店街などと連携して地産地消につなげる活動のこと



武蔵大学と連携したイベント
「江古田ミツバチ・プロジェクトを見に行こう」
(小竹図書館) (※)

知識と人を繋げるアウトリーチの強化

図書と人を結び付け、より多くの区民に知識を届けるため、図書館から区民へのアウトリーチを強化し、まちのいたるところに読書体験の機会を創出します。また、図書館をより多くの人に利用してもらうため、図書館の取組に関する情報を発信します。

取組例

- ・商店街等と連携したまちライブラリー(※)の実施
- ・学校、子育て支援施設、福祉施設や、地域のイベントなどへの出張講座の実施
- ・企画展や事業の成果などのSNS等を活用した発信

※まちライブラリー

店舗や施設などに本棚を設置し、店主等が所有する本や地域で持ち寄った本を閲覧したり借りられる仕組みのこと



薬局に設置された
東洋医学の本を中心とした本棚
(群馬県太田市)

コンセプト 2

練馬の文化を継承・発信する

地域の文化を継承し、次世代につなげていくことは図書館の重要な役割の一つです。

その地域にしかない文化や地域資源に関わる情報、練馬の豊かな都市文化の魅力を収集・保存し、インターネットを活用して世界中のどこからでも見られるように発信していき、地域の魅力の再発見や地域への愛着を育みます。

「地域ならではの」の継承・発信

それぞれの地域の歴史や文化を継承し、次世代に伝えていくことが重要です。

地域の歩みをたどれる資料は、その多くが市場には流通しておらず、災害や経年など、様々な要因で滅失、毀損してしまいます。また、当時を知る方も、時代の経過とともに少なくなってきました。

その地域の貴重な記録を区民と協働して収集、整理し、保存を進めるとともに、これらを利活用し、発信することで、地域の歴史や文化を次世代につなげ、地域の魅力を再発見できるようにしていきます。

取組例

- ・地域の記録の収集と利活用の促進
- ・図書館の地域資料等を活用し地域の史跡などを調べるフィールドワークの実施と、成果の発信
- ・地域の歴史や文化を伝える展示やイベントの実施



フィールドワークを実施し、郷土史家が地域の神社の収蔵品を解説（春日町図書館）

「練馬の文化」の魅力の発信

区内には、美術館をはじめ、様々な文化・芸術に関連する施設があり、区民による多彩な文化活動が盛んです。

「みどり」「都市農業」「映像文化」などの練馬の文化に区民が身近に触れ、楽しめるよう、関係部署と連携した取組を実施していきます。また、練馬の文化に関連する活動の記録を収集、保存し、活用することで、練馬の魅力を発信していきます。

取組例

- ・音楽、伝統芸能、農業振興などのイベントや映像文化事業などに合わせた企画展や事業の実施と、これらの活動の成果等の蓄積と発信



関係部署と連携した牧野富太郎博士についての展示（南大泉図書館分室）

コンセプト 3

知が交わり、創造を生み出す

図書館は、静かに本を読む人、絵本を探す親子、友達と会話を楽しむ学生など、幅広い年代の人々が気軽に立ち寄れる施設です。

個人での読書や調査研究にとどまらず、図書館の多様な情報と場をきっかけに、区民同士の交流を生み出し、地域の課題の解決や新たな活動に繋がります。

人と人、人と地域のつながりの創出

地域にとって身近な施設である図書館が、地域活動の拠点としての一翼を担います。図書館の情報と場を活用して、地域活動の発表の場や、地域の課題等について話し合い、考える場を提供することにより、区民同士の交流や学び合いを生み、地域の課題の解決や新たな活動に繋がります。

取組例

- ・関係部署と連携した、地域で活動する団体とその地域の区民や団体がつながれる場の提供
- ・共通の関心(子育て、健康、防災等)について意見交換できる交流の場の提供
- ・地域資源の再発見や課題解決に繋がるイベントの実施



練馬つながるフェスタ(※)の開催
(大泉図書館)

※練馬つながるフェスタ

パネル展やワークショップなどを通して、町会・自治会をはじめ、NPOやボランティア団体など地域で活動している団体の日頃の取組を知り、団体とつながることができるイベントのこと

多様なニーズに応える空間の創出

近年、利用者ニーズの多様化により、静かに本を読むための「静」の空間と、会話を楽しんだり、共に学ぶための「動」の空間をすみ分けた図書館が多く誕生しています。今後、幅広い利用者ニーズに応えられるよう、空間の整備や、空間の使い方の工夫をしていきます。

取組例

- ・改修に伴う、静と動の空間の整備
- ・ゆとりある空間の創出に向けた、蔵書の見直しや共同書庫の導入
- ・会話などを楽しめる時間帯(おしゃべりタイム)やスペースの提供



中高生のためのグループ学習室
(関町図書館)

コンセプト 4

情報へのアクセスを支援する

インターネットで様々な情報を得られるようになった現在、膨大な情報を体系化し、信頼性の高い情報を提供することがますます重要になっています。

図書館は、デジタルの活用により情報を蓄積し、障害の有無に関わらず、誰もが情報にアクセスできるよう支援するとともに、デジタル・デバイドの解消に向けたサービスを提供します。

デジタルを活用したサービスの提供

新型コロナウイルス感染症の拡大により、開架図書の貸出など図書館サービスの一部を休止することとなり、従来の図書館サービスの課題が顕在化しました。非来館型サービスを進めることは、感染症対策のみならず、時間的・空間的な制約等から利用が難しかった区民の利用促進に繋がります。デジタルを活用することで、より多くの方々が気軽に、簡単に情報を得られる環境を整備します。

取組例

- ・電子書籍や事業のオンライン配信など、非対面サービスの導入
- ・音声読み上げや文字サイズ変更など、障害者サービスの拡充
- ・貸出、返却などの館内サービスのセルフ化



電子書籍サービス

デジタル利活用の支援

デジタル機器を持たない人、操作が不得意な人を支援し、区民がデジタルの活用に関する基本的な知識を身に付け、情報へアクセスできるようになることを目指します。スマートフォンの操作方法などを相談できる、デジタルの利活用を支援する拠点の一翼を担います。

取組例

- ・タブレットやパソコンなどデジタル機器に気軽に触れられる環境の提供
- ・関係部署等と連携したスマホ講習会等の実施



スマートフォンの体験会
(練馬図書館)

情報リテラシーの普及 (※)

誰もが容易に情報にアクセスできるようになった一方、大量の情報から必要な情報を取捨選択し、フェイクニュースなど事実ではない情報から自身を守ることが重要です。身近に溢れる様々な情報を多角的な視点から解釈し、活用するための基本的な能力を身に付けられるよう支援します。

取組例

- ・情報リテラシー講座の実施
- ・オンラインデータベースやレファレンスの活用方法に関する講習会等の実施



小中学生を対象とした講座
「情報の海の泳ぎ方」
(貫井図書館)

※情報リテラシー
情報を取捨選択し、活用するための能力のこと